新約全書哥林多前書　終



新約全書使徒パウロコリント人ゐおくれる後書

第一章

一 神れ旨ゐ由てイエスキリストれ使徒とあれるパウロ及び兄弟テモテコリントゐある神れ教會と徧くアカヤゐある凡れ聖徒ゐ書を達る二願

二 くゝ爾曹我儕れ父なる神および主イエスキリストより恩寵と平康を受よ

三 ○三頌美べきかな神即ち我儕の主イエスキリストれ父慈悲の父すべての

四 安慰を賜ふれ神四神ゝ我儕が諸般れ患難の中ゐわれらを慰めたまふ是我

五 儕をして神れ我儕を慰めたまふ安慰を以て又もろ〳〵の患難ゐをるものを慰むることを得しめん爲なり五蓋キリストれ苦われらに多くあるが如

六 く我儕れ安慰もキリストに由て多くあれば也六われら或ゝ患難を受るも爾曹が安慰と救れ爲なり此安慰と救ゝ爾曹れ中に動きて我儕が受る如き苦を爾曹にも同く忍しむるなり我儕あるひゝ安慰を受るも亦なんぢらが

七 安慰と救れ爲なり七爾曹が苦を借ゐ受る如くまた安慰をも借ゐ受ることを我儕ゝ知これ故に爾曹ゐつき我儕が望むところゝ堅し八兄弟よ我儕が

イ 提後一〇二、徒十六〇一、
ロ 徒十六〇一、
ハ 哥前一〇二、
ニ 詩一〇一、
ホ 加一〇三、
ヘ 弗一〇三、後前一〇三、
ト 羅五一〇十二、約十四〇十八、
チ 詩卅四〇二至六、六十六〇十六、
リ 哥後四〇十一、四一〇廿四、
ヌ 腓後四〇十五、提後二〇七、
ル 羅八〇十七十八、提後二〇十二、
ヲ 徒十九〇廿一至四十一、腓前十五〇廿二、

ワ 羅十七〇五、七、哥後四〇十三、十四、提後四〇十七、十八、彼後二〇九、
カ 哥後四〇十三、十四、
ヨ 提後四〇十七、十八、彼後二〇九、
タ 羅十五〇前、腓一〇十九、哥後四〇十五、九〇十一、十二、
レ 哥後四〇十五、九〇十一、十二、
ソ 徒廿三〇一、羅九〇一、
ツ 哥後二〇十七、四〇二、哥前二〇四、
チ 哥後二〇七、
ラ 哥後五〇十二、
ム 羅二〇十六、撒前二〇十九、廿、
ウ 羅一〇十一、腓一〇廿五廿六、
非 哥前四〇十九、哥前十六〇五六、
ノ

アジアに於て遇し所の苦難を爾曹が知ざるを欲まず即ち責らるゝこと甚
九 しくして勢ひ當がたく生命を保ん望をも失ふに至れり九且われら心中に
十 必死を定む是故に己を恃ずして死し者を甦らする神を恃めり○十神すで
に我儕を此れ如きれ死より救ひ今また救へり後も尚われらを救ひ給わん
十一 ことを望む十一爾曹も我儕れ爲に祈りて相助く斯て許多れ人により我儕に
十二 賜りし恩寵を許多れ人も我儕が爲に感謝するに至らん○十二我儕れ良心わ
れら神れ賜ふ所れ丹心と信實に由また肉れ智慧に由ず神れ恩寵により世
に在て行をなし特に爾曹に向ひて此れ如き行を爲りと證す是われらが誇
十三 る所なり十三我儕なんぢらに書遣る所わ爾曹が讀ところ曉る所れ外に非ざ
十四 るなり十四われ爾曹が終に至るまで左れ事を爾曹れ中に識者あるが如く識
んことを望む即ち主イエスれ日に爾曹が我儕に由て誇る如く我儕も爾曹
十五 に由て誇る是なり十五我これを信ずるに因て再び爾曹に益を得させんため
十六 前に汝なんぢらに至り十六また爾曹を過てマケドニヤに往き復マケドニ
井



オ 哥後十〇二、
ク 徒十八〇五、
ヤ 羅一〇廿五、來十二〇八、撒三〇十四、
マ
ケ 羅十六〇廿五、
フ 約壹二〇廿、廿七、
コ 羅一〇十三、十四、四〇前、提後二〇十九、
エ 哥後五〇五、羅八〇十六、
テ 哥後十三〇二、十、
ア 羅一〇九、腓一〇八、
サ 太廿三〇八、來十、彼前五〇三、
キ 腓一〇廿五、廿六、
ユ 羅十一〇廿、

十七 ヤより爾曹に歸り爾曹をして我をユダヤの方へ送しめんことを欲へり十七
我かく定めしとき虛浮心あらん乎また我が定しところ肉に由てさだめ是
十八 あり是ありと言また非なり非なりと言んや十八眞實の神われらが爾曹に向
十九 ひて曰る言に是と言また非と言しことなしと證す十九蓋われら即ち我とシ
ルワノ及びテモテ爾曹の中に傳たる神の子イエスキリストわ是と言また
二十 非と言が如き事なし彼に唯是と言こと有のみ二十凡て神れ約束わ彼れ中
に是とあり又かれれ中にアメンとあり我儕に由て神れ榮れ顯るゝに及ぶ
二一 我儕を爾曹と偕にキリストに堅固し且われらに膏を沃しものわ神あり
二二 彼また我儕に印し且質として靈を我儕れ心に賜へり○二三我いまだコリ
二三 ントに至らざるわ爾曹を寛容わせんが爲あり我神を顧わが靈れ爲に證を
二四 求む二四我儕なんぢられ信仰を主ぢらんとするに非ず唯なんぢられ喜樂を
助んとするなり蓋あんぢら信仰に由て立べあり

第二章　われ憂を以て再び爾曹に至らじと自ら決たり二若われ爾をして憂

メ 哥後十二〇廿七、
ミ 哥後八〇廿二、
ジ 哥後七〇八、九、十二、
エ 哥後七〇十一、哥前五〇二、
ヒ 哥前五〇四五、羅前五〇廿、
モ 加六〇一、加四〇卅二、
セ 哥後七〇十五、
ス 約廿〇廿三、
イ 哥後十一〇十四、加六〇十一十二、

しめべ我憂しむる所れ者れ外に誰か我を喜べせん乎 三 われ前に爾曹に書遣しい我いたらんとき我を喜べす可もれ反て我を憂しめん事を恐れて也 四 なんぢら皆わが喜樂を己が喜樂とすることを信ずる也 四 われ大なる患難と心の哀痛あるにより多の涙を以て爾曹に書遣れり此い爾曹をして憂しめんとするに非ず我なんぢらを愛する事の深を知しめん爲あり〇 五 もし憂しむる者あらべ我を憂しむるに非ず略おんぢら衆を憂しむるなり如此いふい我これを甚しく責ることを欲いざる也 六 斯る人い多の人の責を受ることと已に足り 七 然べ爾曹い反て彼を赦し慰むべし恐い彼はなはだしく憂に沈まん 八 是故に我なんぢらの愛を彼に顯さんことを爾曹に勸む 九 我前に書を爾曹に遣りしい爾曹が凡の事に順ふや否こゝろみて之を知ん爲なり 十 おんぢら何事によらず人を赦こと有べ我また之を赦さん我もし赦しゝ事あらべ爾曹の爲キリストの前に赦しゝあり 十一 是われらサタンに勝ざらん爲あり我儕かれの詭計を知ざるに非ず〇 十二 我キリストれ福音の爲

ロ 徒十六〇八、廿〇六、
ハ 哥前十六〇九、
ニ 哥後七〇五六、羅八〇卅七、哥前十五〇五十七、
ホ 詩一〇三、
ヘ 哥前一〇十八、哥後四〇三四、詩四〇十八、
ト 哥後五〇十二、十二〇十一、徒十八〇廿七、
チ 哥前九〇二、
リ 哥後一〇十二、
ヌ 詩九〇卅九、後前二〇七八、
ル 哥後三〇五、哥前十五〇十、
ヲ 撒前二〇三至五、後後二〇三、
ワ 哥後一〇十二、
カ 哥後五〇十二、十二〇十一、徒十八〇廿七、
ヨ 哥前九〇二、
タ 出七四〇十二、哥後一〇十三、結十一〇十九、
レ 羅一〇八、
ソ 出七四〇十二、哥後一〇十三、結十一〇十九、
ツ

十三 にトロアスに至り主わが爲に門を闢き給ひしに十三わが兄弟テトスに遇ざるが故わが心安からず彼等に別を告てマケドニヤに往り十四常に我儕をしてキリストに在て勝を得しめ且かれを知の香を我儕をもて遍く示す神に感謝す十五救るゝ者に就ても沈淪者に就ても我儕神の爲にいキリストの馨香なり十六沈淪者の爲にい死の香にて彼等を死に至しむ救るゝ者の爲にい生の香にて彼等を生に至らしむ誰か之に堪んや十七我儕おほくの人の如く神の道を混亂せず即いち誠により神に由て神の前にキリストに在て言なり

十四 第三章 我儕また自ら己を薦めん乎われら或人の如く人より薦書を受て爾曹に與し或い爾曹より薦書を受て人に與すべき者ならん乎 二 爾曹い我儕の書なり即ち我儕心に書せり衆の人の知ところ讀ところ也 三 爾曹い明かに我儕が役事に由て筆るキリストの書なり是墨に非ず活神の靈にて記し又石碑に非ず心の肉碑に記したり 四 我儕キリストにより神に向ひて此の

子 約十五〇五、哥前十五〇十、
ナ 提前一〇十一十二、約二〇廿九、
ラ 羅七〇九至十一、約六〇六十三、羅八〇二、出廿四〇廿九至廿五、
ム 申十〇一至五、
ウ 羅七〇十、哥前十二〇四至十一、
井 羅五〇十五至廿一、
ノ
オ
グ
ヤ
マ
ケ 出廿四〇廿三、廿五、

五 如き信仰あり 五 然ども我儕己に由て自ら何事をも思得るに非ず我儕の思得るい神に因り 六 かれ我儕をして新約の役者となるに足しむ儀文に事るに
七 非ず靈に事ふる也ういい儀文い殺し靈い生せべなり 七 終に廢るべきモーセの面の榮に因てすらイスラエルの人々かれの面を注目こと能ざりき斯く
八 石に鐫し儀文の死法なは榮あるときい 八 況て靈の法い榮あらざらん乎 九
九 罪を定むる法もし榮あらべ況て義とする法い其榮さらに愈らざらん乎 十
十 昔榮ありと爲しものも後の榮わ比れべ榮なき者となれり蓋後の榮の更わ
十一 愈れるに縁てなり 十一 もし廢らん者に榮ありしならべ況て長存る者に榮わ
十二 らざらん乎 十二 われら此の如きことを望むが故に侃々して言なり 十三 是モーセがイスラエルの人々に其廢らんとする者の結局を視ざらん爲に帕子にて
十三 其面を蒙し如きに非ず 十四 然ども彼等心を頑にせり今日に至るまで彼等舊
十四 約を讀とき其帕子なは存れり其存て廢らざるい此キリストに由て廢るべ
十五 き者なれべ也 十五 今日に至るまでモーセを讀とき其帕子なは其心を蒙へり

ツ 申十二〇十、羅十一〇廿三、廿五至廿七、
コ 出廿四〇廿四、
テ 哥前十五〇四十五、
エ 發六十一〇一、羅八〇二、十五、
ア 哥前十三〇十二、
サ 哥後四〇四、六、
キ 哥前十五〇四十九、四三〇十、

十六 然ども其心主に歸するに及べば其かはおはひ除かるべし 十七 主い即ち彼の
十七 靈なり主の靈ある所には自由わり 十八 凡て我儕帕子なくして鏡に照すが如
十八 く主の榮を見榮に榮いや增りて其おなじ像に化る也これ主すなはち靈わ
十八 由てなり

第四章 われら恩慈を蒙りて此職を受たれば敢て臆せず 二 恥べき隱匿たる
二 事を棄て詭譎を行ず神れ道を混さず眞理を顯して神の前に己を衆れ人れ
三 良心に質なり 三 我儕れ福音もし隱ならば沈淪者に隱るゝ也 四 此れ如き人
四 い此世れ神りの心を盲したる不信者なり是神の像なるキリストの榮の福
五 音の光をして彼等を照さざらしめんが爲なり 五 我ら自己の事を宣るに非
五 ず唯キリストイエスの主たること又我らイエスに由て爾曹の僕たること
六 を宣るなり 六 光に命じて暗より照出しめたる神我儕をしてイエスキリス
六 トの面にある神の榮光を知の光を顯さしめん爲に我儕の心を照し給へり
七 我儕この寶を瓦器に藏り是おはいに優たる能い我より出るに非ず神の

ヘ 哥前二〇三至五、
ホ 後前二〇九、
ヒ 哥前一〇廿三、哥後九〇十九至廿三、
フ 創一〇三、
ヘ 提前一〇十三、徒廿〇廿三廿四
メ 哥後二〇十七、哥後四〇四至七、
ミ 哥後五〇十一、
シ 哥前一〇十八、
エ 太四〇八九、那二〇二、
モ 約十二〇四十、
ス 約十四〇九、
ヒ 徒十四〇十一至十五、
イ 哥前一〇廿三、哥後九〇十九至廿三、
ロ 創一〇三、
ハ 後前二〇九、
ホ 哥前二〇三至五、

ト 哥後七〇五、哥後十二〇十、羅八〇卅五、亞卅七、
チ 詩卅七〇廿四、
リ 知六〇十七、撒後二〇十一、
ヌ 羅八〇卅六、
ル 詩百十六〇十、羅一〇十二、撒後一〇一、
ヲ 羅八〇十一、
カ 創廿四、
ヨ 哥前三〇廿一、哥後一〇十一、
タ 詩七十三〇廿六、
レ 西三〇十、彼前一〇六、五〇十、
ソ 太五〇十二、來十一〇一、
ツ 哥後三〇十一、
ナ 羅十二〇十一、
ネ 羅十四〇八、
ム 羅八〇廿五、

八 能なる事の顯れん爲なり八われら四方より患難を受れども窮せず詮かた
九 盡れども望を失はず九迫害るれども棄られず跌倒るれども亡ず十われら
十 何處へ往にも常にイエスの死を身に負り此いイエスの生ることを我儕の
十一 身に顯れしむる也十一夫われら生者の常にイエスの爲に死に付さるゝいイ
十二 エスの生ることを我儕が死べき肉體に顯れしむる也十二斯て死い我儕に動
十三 き生い爾曹に動くなり十三錄して我信ずるに因て言りと有ごとく我儕も此
十四 のごとき信仰の靈あれば信ずるに因て言なり十四我儕い主イエスを甦らし
十五 ゝ者のイエスと偕に我儕をも甦らせ亦我儕をして爾曹と偕に立しむる事
十六 を知り十五萬事い皆なんぢらの益となれり此いろの鴻恩おほくの人の
十七 感謝に由て神の榮を顯さん爲なり十六是故に我儕臆せず我儕が外なる人い
十八 壞るゝとも內なる人い日々に新なり十七夫我儕が受る片刻の輕き苦は極て
大なる窮なき重き榮を我儕に得しむる也十八我儕が顧る所い見る所の者に
非ず見ざる所のもの也蓋見る所の者い暫時にして見ざる所の者い永遠け

ノ 伯四〇十九、彼後一〇十三、約十四〇二、
オ 察九〇十一、廿四、
ク 羅八〇廿三、
ヤ 哥前十五〇五十三五十四、
マ 創廿五〇八、
ケ 約二〇十、哥後一〇廿一廿二、啼一〇十四、
フ 哥後一〇廿一廿二、啼一〇十四、
コ 哥後四〇十八、哥前十三〇十二、
エ 詩一〇廿五廿四、
テ 羅十四〇八、
ア 羅十四〇十、
サ 羅二〇六、默廿二〇十二、
キ 太十〇廿八、哥後六〇一、
ユ 哥後一〇十二至十四、
メ 伯四〇十九、彼後一〇十三、



れゞなり

第五章 我儕これを知われらが地にある幕屋もし壞なゞ神の賜ふ所の屋天
一 にあり手にて造ざる鰥なく有ところの屋なり二我儕此幕屋に居て歎き天
二 より賜ふ我儕が屋を衣の如く着んことを深く欲へり三誠に着ことを得べ裸
三 になること無らん四我儕この幕屋にをり重を負て歎くなり之を衣の如く
四 脫んことを欲いず彼を衣の如く着んことを欲ふ是生に死べき者の呑れん
五 が爲なり五われ此事に應ふ者と我儕を爲給ふ者い神なり彼靈を其質とな
六 して我儕に賜へり六是故に我儕の心つねに剛毅また身に居うちい主より
七 離居ことを知り七蓋われら見る所に憑ず信仰に憑て步めべ也八我儕の心
八 剛毅もつとも欲ふ所い身を離れて主と偕に居んと也九是故に我儕身に居
九 ても身を離れても彼の心に適んことを勉む十蓋われら必ず皆キリストの
十 臺前に出て善にもあれ惡にもあれ各々身に居て爲し所のことに循ひ其報
十 を受べき者なれべ也〇十一如此われら主の畏べきを知が故に人に勸む我儕
十一

ミ 撒前二〇三至十二、
シ 撒後三〇一、
エ 徒廿六〇廿四廿五、
ヒ 徒四〇十九廿、
モ 羅五十三〇六、撒前二〇六、
セ 羅六〇一至十三、十四〇七至九、加二〇廿、
ス 加二〇五末、
イ 羅八〇一、
ロ 約三〇三、加六〇十五、
ハ 啣四〇廿二至廿四、
ニ 羅二〇十七、
ホ 羅五〇十、
ヘ 徒十三〇廿八廿九、
ト 羅三〇廿四至廿六、
チ 約翰書二〇一二、
リ 啣六〇廿、

十二 すでに神に明かに知れたり亦なんぢらの良心にも明かに知れたるならんと意ふ十二我儕また自ら己を爾曹に勧ず我儕の爲に誇るべき原を爾曹に予ふ是なんぢらが之を以て彼の外貌により心に由ずして誇る者に答ん爲なり十三我儕もし心狂るへば是神の爲なり心慥ならば是なんぢらの爲なり

十四キリストの愛われらを勉せり我儕思に一人衆の人に代て死たれば衆の人すでに死たる也十五うの衆の人に代て死しい生者をして以後おのが爲ならで己に代り死て甦りし者のために世を過しめんとて也十六是故に今より後われら肉體に依て人を識まじ我儕肉體に依てキリストを識しかぜも今より後い此の如く之を識まじ十七是故に人キリストに在ときい新に造れたる者なり舊い去てみな新しく作なり十八一切のもの神より出かれキリストにより我儕をして己と和がしめ且うの和がしむる職を我儕に授く十九即ち神キリストに在て世を己と和がしめ其罪を之に負せず且和がしむる言を我儕に委たまへり二十是故に我儕召れてキリストの使者となれり即ち神わ



ヌ 伯廿二〇廿一、
ル 羅五十三〇四至六、九至十二、加三〇十三、
ヲ 羅三〇廿一廿二、
ワ 哥前三〇九、
カ 羅十二〇十五、廿五、
ヨ 啓四十九〇八、
タ 羅三〇七、十三、
レ 羅十四〇十三、
ソ 哥前四〇一、
ツ 提後三〇十、
子 哥前四〇十一、
ナ 哥後十一〇廿三至廿七、
ラ 徒十七〇五、撒前二〇十、
ム 哥後十一〇六、
ウ 羅十五〇十九、
非 羅十二〇九、
ノ 羅一〇十三、
オ 啣一〇十三、
ク 哥前二〇四五、啣六〇十一至十七、
マ 羅三〇八、
ケ 哥後四〇十一、
フ 撒前三〇七至十、

十一 れらに託なんぢらを勧め給ふが如し我儕キリストに代て爾曹が神に和がんことを爾曹に求ふ二神罪を識ざる者を我儕の代に罪人となせり是我儕をして彼に在て神の義となることを得しめん爲なり

**第六章**

一神と偕に勞く所の我儕なんぢらに勧む爾曹神の恩を徒らに受ること勿れ二かれ曰われ慈惠の時に爾に聽また救の日に爾を助たりと今い恩惠の時あり今い救の日なり三我儕この職を謗るゝこと無らん爲に何事にも人を躓かせぜ四且われら凡の事に於て己神の役者の如く行て己の義を人に顯せり即ち多の忍耐にも患難にも窮乏にも困苦にも五責打にも獄ふ入にも擾亂の時にも勤勞にも睡ざるにも食ざるにも六貞潔ことゝ知識と恒忍と仁慈と聖靈と僞なきの愛と七眞の道と神の能と左右に在ところの義の武具を用ゐ八また榮耀、羞辱、惡名、令聞に由て己の義を人に顯せり九人を惑す者に似たれども眞實人に知れざるに似たれども人に知れ死たる者に似たれども生るもの責を受るに似たれども殺されず十憂るに似

コ 即七〇二三、哥前七〇廿九、代下十九〇二、哥前十〇廿一、
エ
テ 哥前三〇十六十七、六〇十九、
ア 出廿九〇四十五、利廿六〇十一十二、結廿七〇廿六至廿八、
サ 瑪五十二〇十一、
キ 耶廿一〇九、詩廿一〇七、
ユ 使前二〇十一、約壹三〇三、
メ 徒廿〇廿三、

十一 たれども常に喜び貧きに似たれども多の人を富し何も有ざるゐ似たれども凡の物を有り〇十一コリント人よ我儕の口なんぢらゐ啓け我儕の心廣なれり十二爾曹われらゐ狹らるゝゐ非ず反て己が心ゐ狹らるゝ也十三われ爾曹
十二
十三
十四 ゐ語ること我子ゐ語るが如し爾曹も自ら心を廣して我ゐ報をなすべし十四なんぢら不信者と耦おかれ蓋義と不義と何の侶なるとか有ん光と暗と何の交るとか有ん十五キリストとベリアルと何の合ことか有ん信者と不信者
十五
と何の干ることか有ん十六神の殿と偶像と何の同きことか有ん夫なんぢらゐ活神の殿なり神嘗て我かれらの中ゐ住り且わゆまん我かれらの神とおり彼等わが民とならんと曰給ひしが如く十七又おんぢら彼等の中より出て
十六
十七
之を離れ汚穢に捫ることと勿れ我おんぢらを納ん十八且れ爾曹の父とおり爾曹わが子女と爲べしと曰る是全能の主の言おり
十八
第八章 然ば愛する者よ我儕この約束を得たれば肉と靈の凡の汚を去て自己を潔くし神を畏れて聖潔ことを成就すべし二爾曹われらを容納よ我儕



ミ 哥後一〇十四、
シ 壞前三〇七至九、
エ 哥後二〇十三、徒廿〇一、
ヒ 哥後四〇八、
モ 哥後十二〇廿一、
セ 哥後一〇三四、
イ 詩卅二〇五十一〇、
ロ 伊後十二〇十三、太廿六〇七十五、
ス 哥後二〇二四、

三 誰にも不義をなさず誰をも損ゐず誰をも掠めし事なし三われ如此いふゐ爾曹を責んとに非ず蓋われ既に言る如く爾曹恒に我儕の心に在て共に死
四
四 ともに生んと欲べなり四われ爾曹を信ることと大なり又なんぢらに繰て
五 誇おほし我儕が受る凡の患難の中にも我に慰め滿ち悅び餘あり五蓋われ
六 らマケドニヤに至れる時我儕の肉すこしも安ことおく各樣の患難にあひ外にゐ爭ひ內にゐ懼わりき六然ども心憂る者を慰め給ふ神テトスの至るに
七 因て我儕を慰め給へり七第に其至るに因て耳おらず爾曹の思慕ところ又
七
憂愁ところ又われに向ふ爾曹の熱心を我に告るとき彼が自ら安慰を得た
八 る其安慰を以て我儕を慰め給へり是故に我ます〳〵喜べり八われ書を以
八
て爾曹を憂しめしを曩にゐ悔たれども今ゐ悔ず蓋われ其書に因て爾曹を
九 憂しめしゐ暫時の間なりしを知たれば也九今わが喜ぶゐ爾曹を憂しめし
九
に因に非ず爾曹ゐ憂て悔改むることを爲しゐ因て也おんぢら神に循ひて
十 憂るゐより我儕ゐ少も損ゐるゝ事なし十ろれ神ゐ循ふ憂ゐ悔おきの救を
十

イ 創四〇十四、母前廿一〇三至六、哥後十七〇廿三、太廿七〇四五、
ロ 太五〇廿九廿、
ハ 哥前五〇一、
ニ 哥後二〇四、
ホ 哥後九〇九、詩二〇十二、
ヘ 哥後七〇七、
ト 哥後三〇四、
チ 哥後三〇四、
リ 羅十五〇廿六、撒前一〇六、二〇十四、
ヌ 民八〇十至十二、可十二〇四十四、

十一 得の悔改ゐ至らしむ然ど世の憂い死ゐ至しむる也十二爾曹ごの神に循ひて憂し所の事を視よ爾曹に如何ある勉勵また自訴また忿恚また畏懼また戀慕また熱心また罪を責る心を生せしや一切あんぢら彼事ゐ於て自ら潔ことを表せり十三われ書を爾曹に達りしい不義を爲たる者のために非ど又不義を受たる者のためゐも非ど只われらが爾曹の爲に有ところの熱心を神の前ゐて爾曹ゐ示さんことを欲てあり十四是故ゐ我儕安慰を得たり我儕が安慰を得たる上にテトスの喜に緣て益々喜べり蓋テトスの心あんぢら衆に緣て平安を得たれゞあり十五われ爾曹の事を彼ゐ誇しかど之を愧とせど我儕が爾曹に語し言のみゐ眞實ありし如くテトスの前ゐ誇し言も亦眞實あり十六彼い爾曹衆人の恐懼戰慄おのれを接て從ひしことを憶いだし益々その心ゐ爾曹を愛せり十七われ凡の事を爾曹ゐ託べきを信ど是故に喜べり

第九章 兄弟よ我マケドニヤの諸敎會に賜りし神の恩を爾曹ゐ告ニ即ち大ある難の中ゐ試を受るとき彼等の喜び甚だしく亦大ある其貧かれらの惜

十二 なく施す所の富厚を彰せり三 我これを證す彼等聖徒の爲に施濟を共にせん事を切に我儕に求め自ら願て其力量に循ひ且ろの力量に過て施すことをせり五 如此おこなひて我儕が望を成しのみならど神の意旨に循ひ先己を主に饋へ次に我儕に饋たり六 是故に我儕テトスが曩に爾曹をして此恩を行いしむる事を倡たれゞ今これを成就せんことを彼に勸む七 なんぢら諸事すゐい信仰と言と知識と凡の勉勵および我儕に向ふ愛心に富るごとく此恩にも富べし八 我かく言い爾曹に命ずるゐ非ど然ど他の人勵むに緣てあり且あんぢらの愛の實を試みんが爲あり九 爾曹われらの主イエスキリストの恩を知かれは富る者ありしが爾曹の爲に貧き者となれり是あんぢらが彼の窮乏に由て富る者とあらん爲あり十 われ施濟の事ゐついて我が意を示せり是なんぢらの益なり蓋爾曹い他の人ゐ先ち此事を一年前に行ひ始しのみならど以前より之を行いん事を願へる者あれゞ也十一 然ゞ今なんぢら其作ところを成遂よ爾曹が篤く願しごとく其所有ゐ循て之を

ワ 徒十一〇廿八至廿、羅十五〇廿五廿六、哥前十六〇一、三四、
カ 徒廿〇四、
ヨ 哥後九〇五、十二〇十八、
タ 哥前一〇五、
レ 哥後七〇七、
ソ 哥後九〇八、
ツ 哥前七〇六、十二、廿五、
子 ウ一七〇五、西一〇十六十七、
ナ 太八〇廿、十七〇廿七、詩二〇六至八、
ヲ 哥後九〇二、

ム 出廿五〇二、路廿一〇三、
ウ 出十六〇十八、
井 哥後八〇六、
ノ 哥後十二〇十八、
オ 哥後九〇十三、
ク 哥後八〇四、六七、
ヤ 哥前十六〇三四、
マ 羅十二〇十七、腓四〇八、後前二〇十二、

十二 成遂べし十三若人ねがふ志あらば其無ところゐ循て納
十三 給ふべし十三われ他の人を安逸ゑて爾曹を困苦めんとするゐ非ず平均せん
十四 ことを欲ふ爾曹の餘あるを以て彼等の足ざるを補ひ十四亦かれらの餘ある
十五 を以て爾曹の不足を補ひて平均せんが爲ゐり十五錄して多く斂る者も餘ゐ
十六 らず少く斂る者も足ざる事ゐゑと有が如し○十六爾曹ゐ向ふ熱心を我と同
十七 くテトスの心ゐ賜ひゑ神ゐ謝す十七蓋かれ我が勸を納かつ熱心ある者ゐし
十八 て自ら願て爾曹ゐ往り十八亦われら彼と偕ゐ一人の兄弟を遣せり此人ハ福
十九 音をもて諸教會の中ゐ頌美を得たる者ゐり十九第此ゐらず我儕が主の榮と
爾曹の熱心を彰さんとて掌理ところの此餽物を携ふる爲ゐ諸教會ゐ選れ
二十 て我儕と偕に往もの也二十我儕の彼を送しは許多の餽物を掌理ことゐより
二一 謹て人ゐ謗を受ることゐからん爲ゐり二一我儕が如此するハ主ゐ前ゐみな
二二 らず人の前ゐも善らんことを慮るゐり二二我儕また一人ゐ兄弟を彼等と偕
ゐ遣せり我儕ゑゑ〳〵彼を多事ゐ用ゐて其熱心ゐるを知かれ深く爾曹を



ケ 腓二〇廿九、
フ 哥後七〇十四、
コ 哥後八〇四、
エ 哥後八〇廿六、
テ 哥後八〇十、
ア 哥前十六〇二、
サ 哥後八〇六、十七十八、二、廿
キ 徒廿〇四、

二三 信ずるに緣て今殊に熱心になれり二三テトスの事を言ば彼ハ我儕の伴侶な
二四 り又われと偕に爾曹の爲に勸る者なり二人の兄弟等のことを言ば彼等ハ
諸教會の使者なりキリストの榮なり二四是故に彼等と亦諸教會の前に爾曹
ろの愛と我儕が爾曹について誇しことの證とを顯すべし
聖徒ゐ施す事ゐついて我なんぢらゐ書遣るゐ及ず二蓋われ爾曹の
二 熱心を知べなり即ち爾曹の事をマケドニヤ人に誇りてアカヤハ去年より
既ゐ備をなせりと言り且なんぢらの熱心おほくの人を激せたり三然ど我
三 儕が爾曹ゐ就て誇りしことの虛ならんことを恐れ我が言し如く爾曹をし
て備をなさしめん爲ゐ兄弟等を遣せり四恐くハマケドニヤ人われと偕ゐ
四 來り爾曹が備せざるを見んとき爾曹ハいふに及ず我儕まで此疑ハず誇し
ゐ因て愧を受ん五是故ゐ我兄弟を勸て先なんぢらゐ往しめ彼等をして曩
五 ゐ爾曹が告し所の惠のことを預じめ備しむるハ必ず爲べきこと〻意る〻
なり蓋この施濟を惜む心よりなさず惠む心より爲しめんとすれば也六ろ
六

ユ 羅十一〇廿四廿五、路六〇卅八、
メ 申十五〇七至十一、出十五〇五、羅廿二〇八、羅十二〇八、
シ 馬三〇十、詩四〇十九、
ヱ 詩百十二〇九、
ヒ 何十〇十二、
モ 哥後四〇十五、
セ 東十三〇十六、
ス 哥後八〇一、
イ 太五〇十六、約三〇十六、
ロ 約三〇十六、

七 れ少く播者ハ少く穫おほく播者ハ多く穫べし七各人うの心の中ゐ欲ふ所
ユ ゐ隨ひて施すべし憂て爲べからぎ亦強て爲べからず蓋神ハ喜びて施をす
メ るものを愛し給へばなり八神ハ爾曹をして常に凡の物に足ざるとなく凡
八 の善事を多く行ハしめん爲ゐ諸シ恩を多く爾曹ゐ賜へ得なり九錄して彼
ヱ ハ徧く施し亦貧者ゐ予たりうの義ハ窮なく存んとあるが如し十播者ゐ
九 種を予へ食の爲にパンを備たまふ者ハ爾曹の種を繁衍し亦なんぢらの義
ヒ の實を增給ふべし十一なんぢら每事ゐ富たれば吝なく施を行ふことを得な
十 り是人をして我儕ゐ由て神に感謝せしむ十二蓋この施濟のこと第に聖徒れ
モ 乏を補ふのみならず推擴め夥け人をして神に感謝せしむるゐ至れば也十三
十一 彼等ハ此施の證據により爾曹が言現してキリストの福音に從ふことゝ吝
十二 なく彼等および衆の人に施することを知十四また神れ爾曹に賜し厚恩ゐ緣
十三 て爾曹を慕ひ爾曹れ爲に祈て榮を神ゐ歸す十五うの言盡されぬ神れ賜物に
セ 因て我神に感謝する也
ス
イ
ロ



ハ 羅十二〇一、
ニ 哥後十三〇二、
ホ 羅九〇九、太十一〇廿九、
ヘ 哥後十二〇十三至十九、
ト 哥後十二〇廿、十三〇十、
チ 哥前六〇十三至十八、羅前五〇八、
リ 耶一〇九、十、哥後四〇七、羅十五〇十九、
ヌ 哥前一〇十九、廿七至廿九、
ル 哥後二〇九、
ヲ 哥後十三〇二、十、哥前五〇三至五、
カ 哥前十六〇七、詩七〇廿四、羅二〇廿八廿九、
ヨ 哥前十四〇廿七、
タ 哥後十一〇廿三、詩壹四〇四、
レ 哥後十三〇十、
ソ 哥後十二〇六、
ツ 哥後十三〇五、七、九、加四〇十三、

**第十章**

一 我パウロ即ち爾曹の中ゐ在て爾曹と面を覿するとき謙卑なんぢ
ハ らを離るゝとき勇敢者いまキリストの柔和と寛容を以て爾曹に勸む二
ニ 我儕を肉に循ひて行と道ふ者あり我かくの如き人を待ふにハ勇敢せんと
ホ 意へり三只ねがふ所ハ爾曹に會とき此の如く勇敢せざらんことなり三我儕
ヘ ハ肉に在て行けども肉に循ひて戰ハず四夫われらが戰の器ハ肉に屬する
ト 者に非ず營壘を破るほど神に由て能あり五我儕ハ神の敎に逆ひて建たる
チ 所の諸の櫓と論を毀し諸の意思を擒にしてキリストに服ハしむ六我なん
リ ぢらが全く服ハんとき諸の違逆者を罰せんと既に其備をなせり○七爾曹
ヌ ハ貌れみを觀か若し人みづからキリストに屬るもれと信せば復自ら之を
ル 思ふべし己づのキリストに屬る如く我等もキリストに屬る者なりと八主の
ヲ 我儕に賜ひし所の權威すなハち爾曹を敗る爲にあらず建ん爲に賜ひし者
カ について愈々誇るとも我愧と爲す九我これを言ハ書を以て爾曹を懼しむ
ヨ る如く見ざらん爲なり十蓋かれらの言に其書ハ重かつ嚴く其會るときの

子 哥後十一〇六、哥前二〇一四、徒十四〇十二、
丑 哥後十二〇二三、十、
寅 哥後三〇一、五〇十二、
卯 箴廿六〇十二、太廿五〇十五、羅十二〇六、
辰 徒十八〇一至四、哥前三〇五、
巳 羅十五〇廿、
午 耶九〇廿三廿四、加六〇十四、
未 箴廿七〇二、路十六〇十五、哥前四〇五、
申 哥後十二〇十一、
酉 哥一〇八、何二〇十九廿、

十一 容ん懦く其言ん鄙と云べなり十一此の如き人これを思ふべし我儕ごの喉違と
十二 きの書の言の嚴きごの如く會ときに行ふ事も亦かくの如くならん十二自ら譽
十三 る者わり我儕敢て之と匹これと較ることをせず然も彼等みづから互に度
十四 みづから互に較れば智なき者なり十三我儕ん量を踰て誇らず惟神われらに
十五 頒給ひし所の法の量に循ふ我儕この量に循ひて爾曹にまで至れり十四我儕
十六 ん爾曹に至るべからざる者の如く自ら量を踰て爾曹に及るに非ず蓋キリ
十七 ストの福音を傳て既に爾曹にまで至れば也十五我儕ん量を踰て他の人の功
十八 勞を誇らず惟なんぢらが信仰いよ〳〵篤なり我儕の量なんぢらの中に在
十九 て更に大ならん事を望む十六是われら他の人の量に由て既に備れるものを
二十 誇らず爾曹を越て外の處に福音を傳んが爲なり十七誇る者ん主を誇るべし
二十一 十八蓋みづから譽るに非ずして主の譽るもの可と爲るれば也
二十二 ◎願くん爾曹少しく我が愚を容よ爾曹ん原より我を容る者なり二
われ神の熱心の如き熱心をもて爾曹を念ふ我なんぢらを一人の夫に聘定

コ 哥五〇廿七、酉一〇廿八、創三〇四、十三、詩八〇四十四、
エ 徒二〇四、八、羅前四〇一、
テ 徒四〇十二、
ア 加一〇七八、
サ 哥ゥ十二〇十一、哥前十五〇十、
キ 哥後十〇十、
ユ 哥後十〇十、哥前三〇四、
メ 哥後十二〇十二、
ミ 徒十八〇一至三、哥前九〇三至十八、
シ 徒二〇二十九、
ヒ 羅前二〇九、羅後三〇八九、哥前四〇十、十四至十六、
エ 哥後十二〇十四、十六、
モ 羅九〇一、
セ 哥前九〇十五、
ス 哥後七〇三、十二〇十五、
イ

三 せり是なんぢらを潔き女としてキリストに獻んとする也三蛇の詭詐にエ
四 バの惑されし如く爾曹の心壞はれてキリストに向ふの誠實を離れん事を我
五 儕懼る四もし人きたりて我儕が未だ宣ざる外のイエスを宣んに爾曹ある
六 ひん未だ受ざる外の靈をうけ或ん未だ受ざる外の福音を受るときん爾曹
七 能これを容ん五我ん何事にも尤も大なる使徒等に亞ずと意ふなり六我ん
八 言に拙けれども智識ん然らず我儕の事ん凡の事について爾曹に顯明なり
九 七われ爾曹を高せんが爲に自ら卑りて價なしに神の福音を爾曹に傳しん
十 罪を犯したる乎八われ他の敎會より奪ひて給料を取なんぢらの爲ゐ役た
十一 り九又われ爾曹の中ゐ在て乏かりしとき誰をも累せざりき蓋マケドニヤ
十二 より來りし兄弟わが乏き所を補ひたれば也すべての事ゐ於て我みづから
守て爾曹を累せざりき尙みづから守らんとす十我に在キリストの眞に從
ひて我いふ我この誇る所のことをアカヤの地ゐて阻る者あらじ十一これ何
故ぞや爾曹を愛せざるゐ因か神知たまへり十二われ機を求る者の機を絕ん

イ 羅十六〇十八、加一〇七、後後二〇一、約壹四〇一、多一〇十一、
ロ 太四〇一三十七、
ホ 雅三〇十九、後後二〇三、十三三廿二、
ヘ 哥前七〇六、十二、廿五、
ト 哥後十二〇五六、九、十一、
チ 哥前四〇十、
リ 加二〇四、四〇九、
ヌ 哥後十〇十、
ル 雅三〇三四、
ヲ 雅十一〇一、約三〇五、

ために我が行ふ所をなは行わんとす是彼等をして其誇るところ我儕と同
十三 からしめん爲あり十三かの輩わ僞の使徒また詭譎を行ふ者にしてキリスト
十四 の使徒の貌に變じたる者なり十四これ奇しき事ゐ非ずサタンも自ら光明の
十五 使の貌に變ずるあり十五是故に彼の役者たとひ義の使者の貌に變ずるとも
十六 大なる事ゐ非ず彼等の終わ必ずりの爲ところに應べし十六又いふ人われを
愚と意ふ勿れ然らずば爾曹われを愚なる者として受納よ是われも少しく
十七 誇らん爲なり十七わが言ところわ主ゐ循ひて言ゐ非ず愚なる者の如く憚ら
十八 ざ誇て言なり十八多くの人肉に因て誇れば我も亦誇るべし十九うわ爾曹わ智
十九 ある者にして喜びて愚なる者を容れべなり二十人もし爾曹を奴隷とし人も
二十 し爾曹を啖ひ人もし爾曹を刼め人もし爾曹に驕り人もし爾曹の面を批と
二一 も爾曹これを容るなり二一我辱て言われらわ懦弱者の如ありき然ど人の强
二二 き所わ我も亦强し（わが如此いふわ愚なるが如し）二二彼等ヘブル人なる
か我も然り彼等イスラエルの人なるか我も然り彼等アブラハムの裔なる

ワ 雅前十五〇十、哥後六〇五、徒廿〇廿三、
カ 哥後十五〇廿節廿二、
ヨ 哥後十五〇廿節廿二、
タ 申廿五〇三、徒十六〇廿二十三、廿二〇廿二、
レ 徒十四〇十九、
ソ 徒廿七〇四十一、
ツ 徒九〇廿三至廿五、
ナ 徒十四〇五、
ラ 徒廿〇廿一、啟後三〇八、哥前四〇十一、
ム 徒十五〇廿六四十一、十八〇廿三、
ウ 徒廿九〇廿二、
井 哥前九〇廿二、
ノ 哥後十二〇五至七、
オ 加一〇廿、羅前二〇五、
ク 徒九〇廿四廿五、

二三 乎われも然り二三彼等キリストの役者なるか我わ之に愈れり（わが如此い
ふわ狂る者の如し）われ勞苦しと彼等より多く鞭たれしと彼等より夥し
二四 く獄に入れらるゝこと多く死に遭こと屢々あり二四又われわ五次ユダヤ人
二五 ゐ四十ゐ一を減じたる鞭を受二五三たび條にて撲れ一次石にて擊れ三たび
二六 破船にわひ一晝夜海にあり二六又しば〳〵旅路を經かつ河の難盜賊ゑ難同
族の難異邦人の難城裏の難野の中の難海中の難僞の兄弟の中の難ゐ遭
二七 り二七また彼等に愈て勞苦つかれ屢々寐ず飢渴ゑば〳〵食を絶ち凍裸なり
二八 し也二八此に言ざる外れ事ありて日々我に迫る即ち諸の教會の憂慮なり二九
二九 誰か弱て我弱ざらんや誰か躓て我が心熱せざらん乎三十もし我かならず誇
三十 るべくば我が弱ことを誇るべし三一永遠頌べき神主イエスキリストゑ父わ
三一 が譃らざるを知たまふ三二ダマスコに於てアレタ王に屬る邑宰われを執へ
三二 んとしてダマスコ人の邑を守れり三三われ筐を以て牖より石垣ゐろひ縋下
三三 されて彼の手を脫れたり

ヤ 結一〇一、徒九〇十二、廿二〇十七、哥後五〇十七、
マ 哥後五〇十七、
ケ 甲十〇十四、
フ 路廿三〇四十三、
コ 哥後十一〇廿、
エ 哥後十〇八、十一〇十六、
テ 加四〇十三十四、伯二〇七、路十三〇十六、
ア 甲三〇廿三至廿七、太廿六〇卅九至四十四、
サ 哥後三〇五、雅四十三〇二、
キ 哥後十〇廿九至卅一、雅四〇十三、
ユ 哥後十一〇卅、
メ 後前四〇十三十四、
シ 太五〇十一、哥前四〇十、
エ 雅五〇三、
ヒ 哥後十三〇四、
モ 哥後十一〇一、
セ 哥前十五〇八九、
ス 哥後十一〇五、加二〇六至十四、
イ 詩十五〇十八十九、哥前九〇二、
ロ 哥後十一〇七至九、
ハ 哥後十三〇一、哥前十六〇五至七、
ニ 哥前十〇卅三、後前五〇二、
ホ 後前五〇八、
ヘ 撒前二〇八、
ト 哥後十一〇九、
チ 哥後八〇六、
リ 哥後八〇十八、

二 誇言わが誇ゝ固より益なし今ゝ主の顕現と默示に及べんニ我キリストにある一人の者を知り此人十四年前に挈へられて第三の天に至る（或ゝ肉體に在しか我知らず或ゝ肉體の外に在しか我知らず神知たまふ）三我この人を知（かれ或は肉體に在しか或ゝ肉體の外に在しか知ず神知り給ふ）四かれ挈へられて樂園に至り言べからざる言卽ち人の語るまじき言を聞り五我かくの如き人れ爲に誇るべし我ごの弱ことの外ゝ自ら誇らず六我もし自ら誇らんとするとも愚なる者とならず蓋眞を言べなり然ども人の我に見ところ或ゝ我に聞ところに過て我を擬んことを恐るゝに因て誇ることを止べしセまた賜りし多れ默示に因て我ごの傲ること無らん爲に一の刺を我ごの肉體に予ふ卽ち我ごの傲ること無らん爲に我を擊サタンの使者なり八我これごの爲に三次主に之を我より離んことを求たり九我に言給ひけるゝ我が恩なんぢに足り蓋わが能ゝ弱に於て全あれべ也この故ゝ寧ろ欣びて自己の弱に誇らん是キリストの能われに寓らん爲なり十之に因て我キリストの爲に懦弱と凌辱と窘乏と迫害と患難に遭を樂みとせり蓋われ弱き時に强けれべ也十一われ誇るに因て愚ある者となれり爾曹われを强て如此なせり蓋われ取に足ざる者なれども凡の事もつとも大なる使徒に亞らず原より爾曹に譽らるべき者あれべ也十二われ休徵と奇跡と妙用をもて爾曹の中に多く忍びて使徒の證をなせり十三我が爾曹を累ゝせざる事の外は爾曹他の教會に何の亞る所かある願くゝ我この不義を恕せ十四われ今第三次なんぢらに至んとて備せり又なんぢらを累はせざらんとす蓋われ爾曹の所有を求めず唯なんぢらを求れべ也ろれ子ゝ親の爲に積ふべき者に非ず親ゝ子の爲ゝ積ふべきものなり十五我いよ〳〵爾曹を愛すれべ愈爾曹に愛せられず然ども欣びて爾曹の靈魂の爲に財を費し身を盡すべし十六然ども或人言ん我なんぢらを累せざるゝ巧ある者なるゝより詭計を以て爾曹を牢籠るなりと十七われ爾曹に遣しし者の中の誰ゝ由て爾曹より利を得しや十八我請てテトスを爾曹に遣し又かれと偕ゝ我儕の兄弟をも遣せりテ

ヌ 哥後五〇十二、羅九〇一、
チ 哥前十〇廿三、
リ 哥後十三〇二十、哥前四〇廿一、
カ 哥後二〇一至四、
ヨ 哥後十三〇二、哥前五〇一、
タ 哥後十三〇二、哥前四〇十九
レ 申十九〇十五、
ソ 哥後十〇二、哥前四〇十九、三廿一、
ツ 太十〇廿、哥前五〇四、
子 哥一〇十九、
ナ 哥一〇七八、

十九 トス爾曹より利を得し乎われら同心ゐて行ざりしや同跡を行ざりし乎○
十九 爾曹また我儕みづから爾曹に愬すると意ふや我キリストに在て神の前
二十 にいふ愛する者よ我儕の行ふ所は皆爾曹の德を建ん爲なり二十我いたらん
時われ爾曹を見ゐ我が欲し如ならず爾曹が我を見にも爾曹の欲し如くな
らざらんとを恐また爭鬪、娼嫉、忿怒爭ひ分るゝこと毀謗、讒言、驕矜、混亂
などの有んとを恐る二一又わが再び至らん時わが神我をして爾曹の中ゐ愧
しめ給はんとを恐また我おほくの人の罪を犯て其行ひし所の汚穢、姦淫、
放肆などの事を悔改めざるを見て憂んことを恐る

**第十三章**

二 我いま第三次なんぢらに至らん二人ゐるひゝ三人の證人の口ゐ
憑て凡の事定るべし二我さきゐ爾曹に告たり我第二次ゐんぢらゐ覿しと
き語りし如く罪を犯しゝ者と其餘の人々に今また預じめ睽違て告われ復
三 いたらゞ必ず恕さじ三是なんぢらキリストの我ゐ在て語る徵を求るゐ因
てなり彼ゝ爾曹に向て弱からず爾曹れ中ゐ强なり四かれ弱に由て十字架
四 に釘られたれど神の能に由て生たり我儕も彼ゐ在て弱者なれど爾曹に向
五 ふ神の能に由て彼と偕ゐ生ん五なんぢら信仰ゐ居や否や自ら省み自ら試
むべし爾曹もし棄らるゝ者ならずゞイエスキリスト爾曹の中ゐゐり之を
六 自ら知ざらん乎六われら棄らるゝものに非ざるを爾曹知んことを我のゞ
七 む七我儕なんぢらが少も惡を行はざらんことを神に願ふ此われらの是な
ることを彰すゐ非ず我儕棄らるゝ者の如く見るも爾曹が善を行ゑんこと
八 を願ふなり八蓋われら眞理に逆ひて能なし眞理ゐ順ひて能われゞ也ル わ
九 れら弱して爾曹强ときゝ我喜ぶ我儕願ふ所ゝ爾曹の全ならん事なり九是
十 故ゐ我睽違てあるとき此を書遺る是なんぢらに覿んとき主の我ゐ賜ひし
權威すないち敗る爲に非ず建る爲に賜ひし者に循ひて嚴く爾曹を待ふこ
十一 と無らん爲なり十一此外また言ん兄弟よ爾曹喜ぴ且全なり且慰め且心を同
十二 うし且和睦ことをせよ然らゞ愛と平安の神ゐんぢらと偕に在ん十二なんぢ
十三 ら潔き接吻をもて互に相問べし十三諸の聖徒ゐんぢらに安を問り十四願くゝ
十四

ラ 哥一〇十九廿、哥後四〇七至十二、
ム 羅六〇八至十一、哥後十一〇廿八、
リ 哥前十一〇廿八、
井 哥前九〇廿七、
ノ 羅八〇十、
オ 約三〇十九、廿四、
ク 約三〇十九、廿四、
ヤ 來六〇二十三〇廿一、
マ 哥後十二〇廿一、哥後十〇八、哥前五〇四、
ケ 太五〇四十八、羅十二〇十八、羅十五〇廿三、
フ 太五〇四十八、羅後二〇十六十七、羅十二〇十六、
エ 羅十二〇十八、
ア 羅十五〇廿三、
サ 羅十六〇十六、

主イエスキリストの恩と神の愛と聖靈の交際なんぢら衆と偕に在んことをアメン

新約全書哥林多後書　終



新約全書信徒パウロガラテヤ人に贈れる書

第一章　人よりゐ非ず又人に由ずイエスキリストと彼を死より甦らしゝ父なる神に由て立られたる使徒パウロ二及び我と偕に在すべての兄弟ガラテヤの諸敎會に書を達る三ゐんぢら願くゝ父なる神および我儕の主イエスキリストより恩寵と平康を受よ四キリストゝ我儕の父なる神の旨に循ひ今の惡世より我儕を救出さんとて我儕の罪の爲に己が身を捨たまへり五願くゝ榮彼ゐ歸して世々に至れアメン○六キリストの恩をもて爾曹を召たる者を爾曹が如此すみやかに離れて異なる福音に遷し事を我怪しむ七此ゝ福音ゐ非ず或人たゞ爾曹を擾しキリストの福音を更んとする也八我儕ゐもせよ天よりの使者にもせよ若われらが曾て爾曹に傳し所ゐ逆ふ福音を爾曹に傳る者ゝ詛るべし九我儕既に言しが今また我ろの如く言ん若ゐんぢらが受し所に逆ふ福音を爾曹ゐ傳る者ゝ詛るべし十今われ人の親を得んことを要るや神の親を得んことを要るや或ゝ人の心を得んこ

イ 加一〇十五十六、徒九〇六十五十六、羅一〇三、
ロ 羅後一〇二、約貳三、
ハ 來十〇九、十、
ニ 約十七〇十四十五、約壹五〇四五、十九、加二〇廿、太廿〇廿八、
ホ 哥前三〇五、四〇十五、加四〇九、五〇七、
ヘ 加五〇十、十二、徒十五〇一至五、廿四、羅十六〇十七十八、
ト 羅前十六〇廿二、
チ 申四〇二、徒四〇十九、五〇廿九、撒前二〇四、
リ 申四〇二、徒四〇十九、五〇廿九、撒前二〇四、
ヌ 哥前十六〇廿二、
ル 加一〇十、